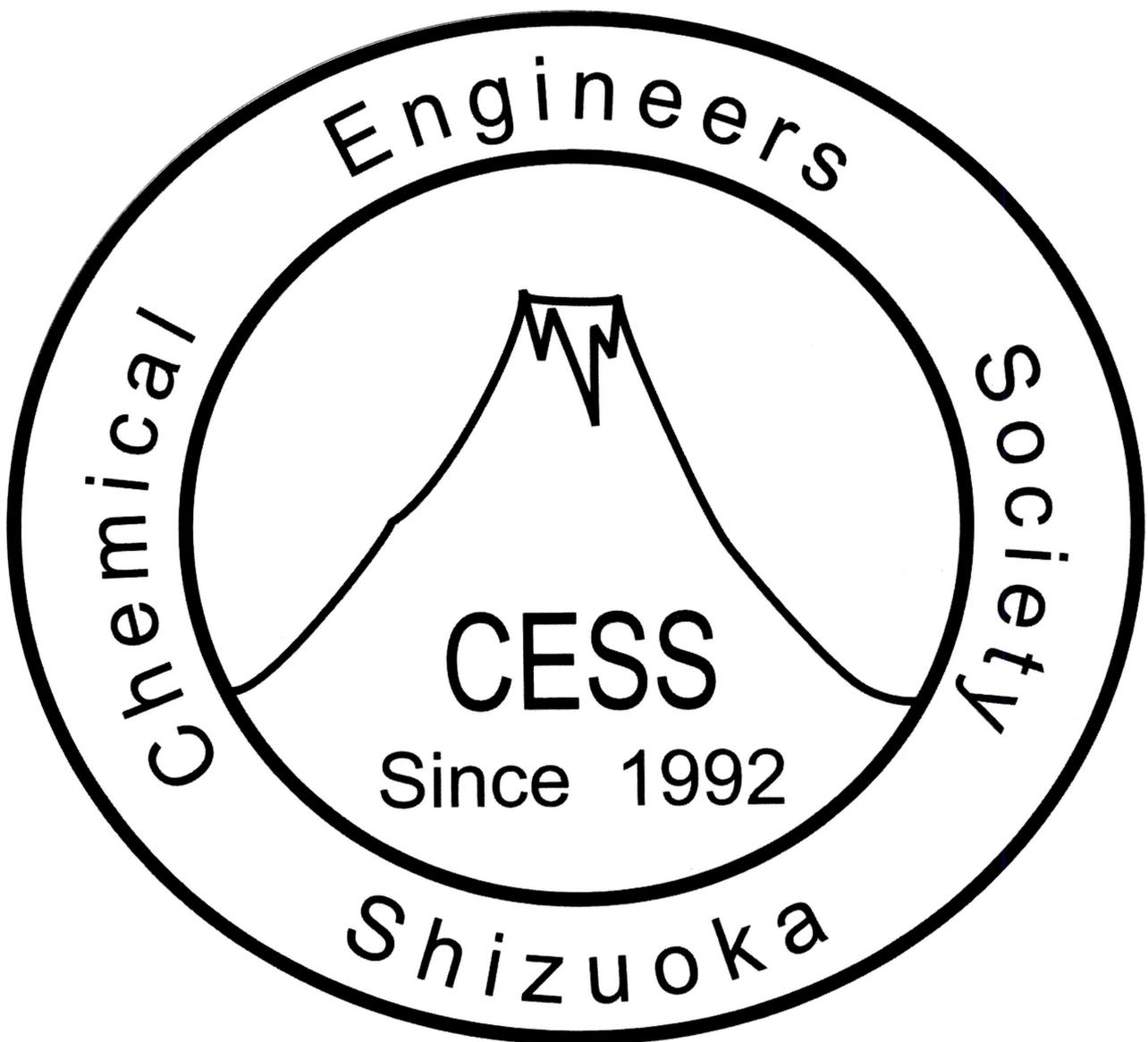


静岡化学工学懇話会

会報

第15号



目 次

ご挨拶 静岡化学工学懇話会 会長 蓮見文彦	1
平成 18 年度事業報告	2
平成 18 年度総会・見学会	
・第 32 回静岡コロキウム「農薬研究開発の現状」顛末記	4
第 14 回静岡フォーラム「医療機器開発の未来」顛末記	7
第 15 回企業技術交流会 顛末記	10
第 33 回静岡コロキウム「貴金属触媒の設計と応用」顛末記	12
静岡化学工学懇話会 平成 18・19 年度役員名簿	15
平成 19 年度事業計画	16
会員企業ルポ	18
静岡化学工学懇話会ホームページ紹介	20
会員名簿（平成 19 年 5 月 18 日現在）	21
大学・高専等の職制変更について	27
編集後記	27

（付：入会のご案内、入会申込書）

ご挨拶

静岡化学工学懇話会

会長（平成18、19年度）

蓮実文彦



化学工学会東海支部の下部組織として組織された本懇話会も、今年で設立15年目となります。この間、本懇話会は全国の中でも屈指の活発な活動を展開してきたものと自負致しております。これも、静岡大学の先生方を中心に、本会をお支え下さっている会員各位の会員意識の高さによるものと感謝申し上げます。

昨年度も、「静岡コロキウム」、「静岡フォーラム」、「企業技術交流会」と本会主催の行事を例年通り開催させて頂きました。特に、「静岡フォーラム」は、当懇話会の独自企画による勉強会となっています。ここでは、今後企業化されるであろう先端技術に関する話題が取り上げられます。昨年度は、当懇話会の幹事木村先生が、「医療機器開発の未来」と題しコーディネートされました。化学工学からの発想で先端技術開発をめざし、「体温をエネルギー源とした心臓ペースメーカー開発の試み」との演題で、木村先生ご自身が講演されたのを始め、光の浜松に相応しく、「光による細胞と生体計測」と題し、浜松医大の副学長寺川先生からご講演頂きました。東海地区の研究者のみならず、京都大学、大阪大学の先生方からも最先端の医療技術開発の現状にご案内頂く貴重な場となりました。残念ながら、参加者は学生も含め51名と当懇話会としては、不本意な参加者数でした。今年も、会員の皆様に興味を感じて頂ける企画を検討致します。どうぞ多数のご参加をお願い申し上げます。

昨年度の「静岡フォーラム」への参加者数とも関連するのですが、最近気になることがございます。それは、「07年問題」としてマスコミでもしばしば取り上げられている団塊世代の大量退職後の技術継承問題です。「静岡コロキウム」と「企業技術交流会」には、企業会員を中心に多数の会員が参加され、いつも熱心な勉強と貴重な交流の機会となっております。しかし、これらの会に参加される方が固定化されていることです。新たな若い技術者、研究者の参加が少ないと感じております。静岡県は、工業製品出荷額全国3位と高い生産技術を誇る地です。この技術を支えてこられたのが、会員各位であると感じております。その先輩の意思を受け継ぐ若手が本懇話会に参加していないのは、大変残念であると同時に、心配でもあります。化学工学分野での技術を支え発展させるという使命感、責任感が受け継がれているのかという疑問です。技術者としての高い意識があれば、懇話会の会員数は増えることはあれ、減少することなどあり得ないものと存じます。

今年度は、諸先輩の思いを若手技術者、研究者に伝えるためにも、どうぞ職場の若手に本会への入会をお勧め下さいますようお願い申し上げます。

平成 18 年度事業報告

主催行事：

(1) 役員会、総会、見学会

日 時：平成 18 年 5 月 26 日（金）

会 場：イハラケミカル工業（株） 静岡工場（庵原郡）

見学会：イハラケミカル工業（株） 静岡工場 農薬製造工程

参加者：33 名

(2) 第32回静岡コロキウム

日 時：平成 18 年 5 月 26 日（金）

会 場：イハラケミカル工業（株） 静岡工場（庵原郡）

内 容： 講演 2 件

（「植物と昆虫の関係における最近の話題－ワサビを中心にして」

静岡大学農学部 衛藤 英男 氏 他 1 件）

参加者：33 名

(3) 第14回静岡フォーラム／第66回研究談話会「医療機器開発の未来」

日 時：平成 18 年 10 月 24 日（火）

会 場：アクトシティ浜松 コンgressセンター 53・54 会議室（浜松市）

内 容：講演 5 件

（「磁性微粒子を用いた新しい医療」名古屋大学 本多裕之氏 他 4 件）

参加者数：51 名

(4) 第15回企業技術交流会「機能性セラミックスおよび応用技術の開発状況」

日 時：平成 18 年 12 月 13 日（水）

会 場：F D K（株） 湖西工場（湖西市）

内 容：講演 3 件・見学会

（「非接触・ナノレベル磁気研磨による超鏡面加工」

F D K（株） 湖西工場 松尾良夫氏 他 2 件）

参加者：26 名

(5) 第33回静岡コロキウム「貴金属触媒の設計と応用」

日 時：平成 19 年 2 月 14 日（火）

会 場：エヌ・イーケムキャット（株） 沼津工場（沼津市）

内 容：講演 3 件・見学会

（「最近の規制動向と対応する触媒技術開発」

エヌ・イーケムキャット（株） 田中 康氏 他 2 件）

参加者数：40 名

共催・後援行事：

- (1) 第9回「リフレッシュ理科教室」
主 催：応用物理学会東海支部
日 時：平成18年6月2日（金）、3日（土）
会 場：浜松科学館（浜松市）
参加者：約200名

- (2) 第30回基礎化学工学演習講座
主 催：化学工学会東海支部
日 時：第1コース 平成18年6月21日（水）～23日（金）
 第2コース 平成18年6月28日（水）～30日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）
参加者：93名

- (3) 第85回講演見学会／化学工学会分離プロセス部会第3回講演及び見学会：「バイオプロセスによる生産と精製・・・醸造酢と医薬品」
主 催：化学工学会東海支部／化学工学会分離プロセス部会
日 時：平成18年7月7日（金）
会 場：(株)ミツカングループ本社（半田市）、ファイザー（株）名古屋工場（知多郡）

参加者：92名

- (4) 第1回信州コロキウム／第48回技術懇話会：「ナノテクノロジーを駆使したナノ材料の開発および展開」
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成18年8月10日（木）、11日（金）
会 場：長野県松本市浅間温泉みやま荘（松本市）
参加者：33名

- (5) 第86回講演見学会：「物質循環型地域社会を目指した地方自治体の取り組み」
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成18年9月27日（水）
会 場：田原リサイクルセンター（田原市）
参加者：20名

平成18年度総会・見学会

第32回静岡コロキウム

「農薬研究開発の現状」 顛末記

平成18年度総会は5月26日（金）にイハラケミカル工業株式会社静岡工場を会場に34名の参加者をもって開催されました。本年度は役員改選の時期にあたり、18年度、19年度の静岡化学工学懇話会会長に沼津工業高等専門学校の蓮実文彦教授が推薦され、総会の満場一致で可決されました。副会長には飯塚 弘矢崎総業（株）材料技術開発部長が重任、須藤雅夫静岡大学教授が新任として承認されました。また、新会長から日本軽金属（株）の浜辺順彦氏を名誉会員に推薦する議案が提出され、異議なく承認されました。

前年度の事業報告、会計報告がなされましたが、主催行事のみならず共催・後援行事にも多彩に参加し活発に活動している様子が報告され、初めて参加した記者は深く感じ入りました。18年度もコロキウム2回、フォーラム1回、技術交流会1回の実施計画が提案され、それぞれが会員相互の親睦と知識向上に役立つ事業になるものと確信しました。

総会に続き、第32回静岡コロキウムが開催され、静岡大学農学部 衛藤英男教授から「植物と昆虫の関係における最近の話題—ワサビを中心として」という題材で講演がありました。わさび葉の食昆虫が数多くある中でヘリシロカラスノメイガの特異的な行動が紹介され、さらには、害虫の接食によるダメージで植物中のネロリドールが4,8-ジメチル-1,3-ノナトリエンという揮発性有機物に変化し、その物質が捕食者を誘引するという最近の研究が紹介され、新たな農薬開発のヒントになるのではという提言がありました。これ以降、反応式が一杯出てきてアカデミックな話になるのかと思いきや、我々の食生活に役立つ「本わさびと西洋わさび」「市販品わさび」の話になり緊張がゆるみましたが、よくよく内容を見てみると本わさびと西洋わさびのDNAの配列の決定やら、類の特定などでまだまだ不明な点が多く、静岡県の名産である「わさび」を科学的に検証し生活に役立てる研究が残っていることを感じさせてくれました。

2人目は、ホスト幹事のイハラケミカル工業（株）の木村が「農薬開発とプロセス研究」について、農薬の安全性を強調した話題提供と原体合成におけるプロセス研究の重要性、その後の化学工学的手法による工業化への期待を述べました。工場見学には5班に分かれて、最新の農薬原体製造設備、自動倉庫、廃水処理施設などを見ていただきましたが、あいにく工場の定修時期であったためにプラントは稼動しておらず、工事の危険回避のために外部からの見学コースになったことをお詫びします。

恒例の懇親会は富士市の割烹「角山」で和気藹々に行われ、あっという間の2時間が過ぎました。多くの会に出席する機会がありますが、初めての人がスーと溶け込める会はそれほど多くはなく、今回皆様にいただいた名刺の数も数多く、温かみを感じました。上野先生をはじめ多くの幹事の方々のお蔭で無事終了することができお礼申し上げます。

（イハラケミカル工業株式会社 研究開発部 木村芳一 記）





第14回静岡フォーラム

「医療機器開発の未来」顛末記

平成18年10月24日（火）、浜松駅前のアクトシティコンgresセンターにて第14回静岡フォーラムが開催されました。今回のテーマは、「医療機器開発の未来」と題し、最先端の医療機器開発の話題を提供して頂きました。本フォーラムは、化学工学会東海支部第66回研究談話会との共同主催行事でありました。また、今回も、静岡大学イノベーション共同研究センター協力会様から資金的な協賛を賜り、また、同会からもご参加を頂くことができました。

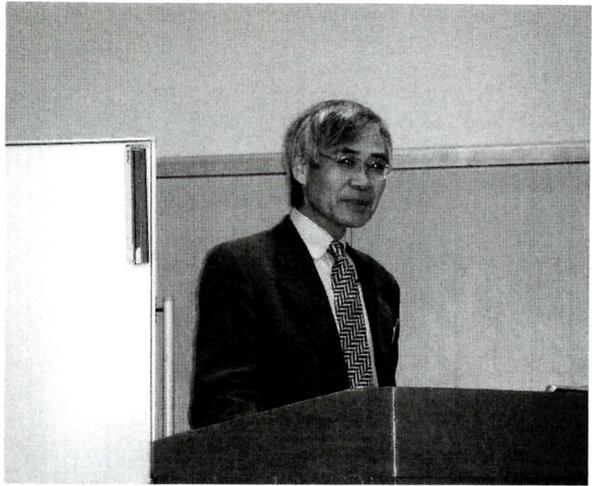
会の第1部である講演会では、蓮実文彦会長のご挨拶および須藤雅夫化学工学会東海支部長のご挨拶を頂いた後、5名の講師による講演を頂きました。最初の講演は、僭越ながら私が「体温をエネルギー源とした心臓ペースメーカの試み」と題して体内での発電方法のご紹介をさせて頂きました。お2人目のご講演は、名古屋大学の本多裕之先生から「磁性微粒子を用いた新しい医療」と題して、再生医療へのナノ磁性微粒子の応用法のご紹介を頂きました。昼食をはさみ、最初のご講演は、京都大学の小林哲生先生から「MRIと脳磁図による能機能イメージングの新たな取り組み」と題して、機能的磁気共鳴画像法(functional MRI)の最先端の応用例を多数ご紹介頂くと共に、脳機能の研究が非常に進歩している現状をご紹介頂きました。午後のお2人目のご講演は、大阪大学の左藤嘉伸先生から「医用画像解析とその手術支援システムへの応用」と題して、外科手術にて使用される手術ナビゲーションなどの医療現場での最先端技術をご紹介頂きました。講演会最後のご講演は、浜松医科大学副学長の寺川進先生から「光による細胞と生体の計測」と題して、生体細胞を立体的に観察できるファイバー結合式共焦点顕微鏡など、光を利用した最先端の計測技術のご紹介を頂きました。

会の第2部では、会場を名鉄ホテルに移動し、懇親会を開催致しました。懇親会には講師の先生方と参加者の殆どの方々にご参加頂くことができ、多くの情報交換をして頂くことができました。化学工学を専門としている多くの本会員の皆様には、医療分野の研究者との接点はあまり多く無いかと思われましたが、講師の先生方と本会員の方々が非常に活発に医療技術に関するお話をして頂くことができました。本フォーラムで私が担当させて頂き、医療分野のテーマを扱うのは今回で2回目となりました。前回（第4回静岡フォーラム）のときと同様に今回も参加者数が伸び悩み、採算ぎりぎりの運営となったことが唯一の反省点でした。今後の静岡フォーラムのテーマ選択の重要性を再認識することができました。

ご後援頂いた講師の先生方および、ご参加頂いた皆様方には、会を盛り上げて頂きましたこと、お礼申し上げます。また、多くのご支援、ご協力を頂きました静岡化学工学懇話会、化学工学会東海支部のご関係の皆様には深く感謝申し上げます。

（静岡大学工学部 木村元彦 記）





第15回企業技術交流会 顛末記

平成18年12月13日(水)に、湖西市鷺津にあるFDK株式会社湖西工場を会場として、第15回企業技術交流会を開催いたしました。今回のテーマは、「機能性セラミックスおよび応用技術の開発状況」と題して開催されました。

会場となった同社湖西工場の建物内に入ると、そのロビーに、大変に小型で微細加工されたスイッチング電源等の製品や小型のチップ部品などが陳列されており、同社の製品が電子産業分野で最先端的存在であることを印象付けられました。

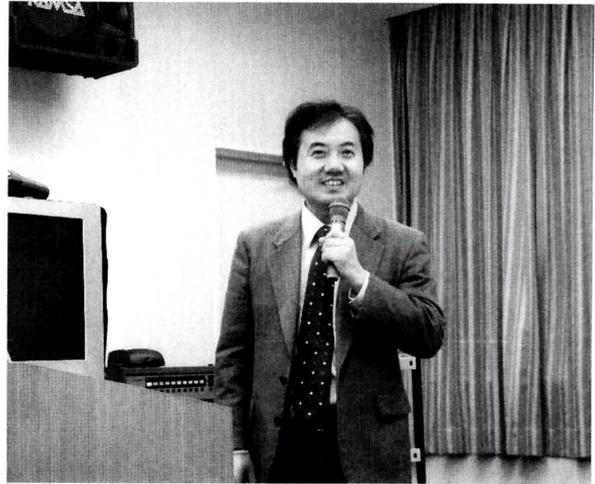
会の第1部では、蓮実文彦会長のご挨拶およびFDK株式会社の紹介ビデオ上映に続き、3名の講師の先生方によるご講演をいただきました。最初の講演は、「非接触・ナノレベル磁気研磨による超鏡面加工」と題して、FDK株式会社の松尾良夫氏にご講演いただきました。磁気研磨技術を応用することで、表面粗さを100nm程度にまで小さくすることができる技術をご紹介いただきました。お二人目の講演は、「磁気工学空間光変調器の開発」と題して、FDK株式会社の梅澤浩光氏にご講演いただきました。磁性ガーネット膜の磁気光学効果を応用した磁気空間光変調器(MOSLM)の開発状況のご紹介をいただきました。休憩の後、静岡大学創造科学技術大学院の鈴木久男先生から「強誘電体セラミックス膜の合成と応力誘起巨大圧電性」と題してご講演いただきました。極めて大きな電圧を誘起することのできる強誘電体薄膜をゾルーゲル法やCSD法で形成する方法などをご紹介いただきました。

講演会に引き続いて、同社の鷺津工場に移動して見学会が開催されました。アルカリ乾電池の詳細な製造方法の説明や、同社の鷺津工場は我が国の乾電池の大半を製造しているとの話をいただいた後、同社のアルカリ乾電池の製造設備を見学しました。工場では、極めて多数の電池が目にも留まらない程の速さで製造ラインを流れていることに驚きました。また、設備の至る所に効率良く電池を組み立てることのできる工夫がなされていました。

見学会終了後には、鷺津駅前の鮎屋で本懇話会恒例の懇親会を開催しました。懇親会は、いつものように、大変に盛り上がり、参加者全員が多くの会員と情報交換をしていただくことができました。

(静岡大学工学部 木村元彦 記)





第33回静岡コロキウム 「貴金属触媒の設計と応用」 顛末記

当日はあいにくの雨でしたが、晴れていれば富士山をすぐ近くで見ることができるという、エヌ・イーケムキャット株式会社（沼津市一本松）において、2月14日に第33回静岡コロキウムが開催されました。各地から40名もの参加者が集まり、盛大に行われました。

はじめに蓮実文彦会長（沼津高専）から開会の挨拶があり、その後3件の講演が行われました。

1件目は、開催地であるエヌ・イーケムキャット株式会社の田中康氏によるご講演で、「最近の規制動向に対する触媒技術開発」というタイトルでした。ディーゼル車排ガス中のNO_x規制が年々厳しくなっており、エヌ・イーケムキャット株式会社では、将来的にさらに厳しくなっても規制値をクリアできるような触媒の開発をされているということでした。特に日本の規制値はヨーロッパに比べても非常に厳しいものであり、エヌ・イーケムキャット株式会社の技術水準の高さに驚かされました。

2件目は、本会会長でもある沼津高専の蓮実文彦先生から「貴金属コロイドを利用した診断薬の開発」というタイトルでご講演をいただきました。感染症診断用の発色体として、ナノオーダーの金属コロイド粒子を開発されているとのことでした。具体的な実験方法から開発過程などを丁寧にご解説いただき、参考になるとともに、将来的に高感度な感染症診断方法が開発されることが大いに期待でき、興味深いご講演でした。

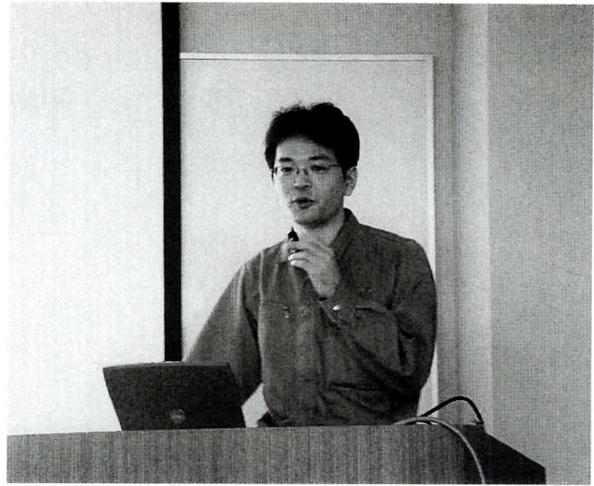
3件目は、豊橋技術科学大学の角田範義先生のご講演で、「プラズマ放電下における金属微粒子を担持したメンブレン状アルミナ（MA）の触媒作用」というタイトルでした。現在、高温高压下で行われているアンモニア合成をプラズマ反応によって常温常圧で行うことを目指しており、その際に用いるメンブレン状アルミナの開発をされているということでした。ご講演では、金属の担持により、その性能が向上するようすを示され、また、使用されたメンブレン状アルミナそのものを実際に見せていただきました。触媒反応についてさらに専門的な内容にも話が及び、会場内で活発な議論がなされました。

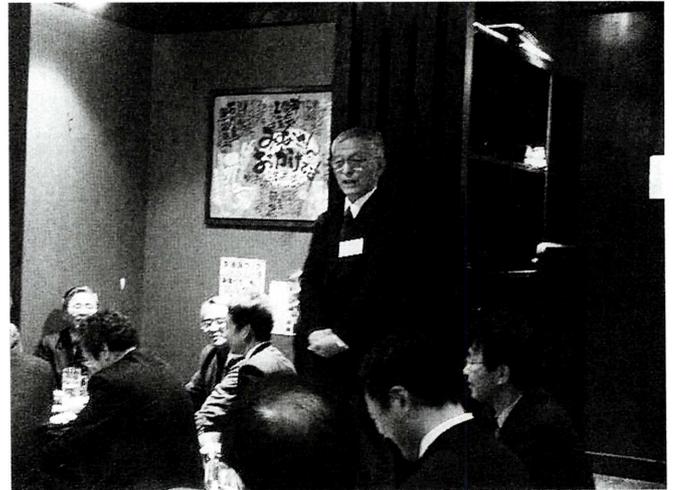
講演終了後には、エヌ・イーケムキャット株式会社の工場を見学させていただきました。先の田中氏のご講演にもあった自動車用触媒の開発、性能評価および劣化試験などの現場を見せていただき、実際に自動車のエンジンを並べて試験をされている様子を見ることができました。自動車の車種によって搭載される触媒もひとつひとつ変わるとのことです。新たな車種が発売されるたびにその車種にあった触媒を用意しなければならないとのこと、見学の日にも実際に試験が行われていました。

見学会の後には、この会恒例の懇親会となりました。会場はJR原駅近くの「串特急」というお店でした。本年度の化学工学会東海支部長の須藤雅夫教授（静岡大学）による乾杯の音頭とともに始まり、参加者同士が交流を深め、大変にぎやかな会となりました。また、この会の発展にご尽力をいただいた静岡大学の上野晃史先生、溝口健作先生がご退職なさるということで、ご挨拶をいただきました。私自身この会への参加を重ねることで、多くの方々と交流ができ、この会を通して東海地区の研究者や技術者の交流を深めていくことの重要性を実感しました。

最後に、ご講演をいただいた3名の講演者の方々に厚く御礼を申し上げます。また、会場の提供、見学会などを引き受けていただいたエヌ・イーケムキャット株式会社の皆様に心より感謝申し上げます。

（静岡大学工学部 立元雄治 記）





静岡化学工学懇話会

平成18・19年度役員名簿

<会 長>

蓮実 文彦 沼津工業高等専門学校物質工学科 教授

<副会長>

飯塚 弘 矢崎総業(株) 技術研究所 主査
須藤 雅夫 静岡大学工学部物質工学科 教授

<幹 事>

木村 元彦(庶務担当) 静岡大学工学部物質工学科 教授
武田 和宏(会計担当) 静岡大学工学部物質工学科 准教授
河合 文雄(会誌担当) (有) ホープ・マネジメント 代表取締役
立元 雄治(H P 担当) 静岡大学工学部物質工学科 准教授

小林 博行 ポリプラスチックス(株) 研究開発本部 研究企画室
岩堀 恵裕 静岡県立大学環境科学研究所 所長
上野 晃史 エフ・シー・シー(株) 技術研究所 顧問
内田 時彦 東レ(株) 三島工場 医薬品製造部 部長
高山 正視 イハラケミカル工業(株) 研究所長
鈴木 秀圭 日本軽金属(株) 清水工場 生産部 部長
曾根 真人 静岡ガス(株) 技術開発センター 顧問
鈴木 康之 J S Tサテライト静岡 科学技術コーディネータ
岡野 泰則 静岡大学創造科学技術大学院 教授
日吉 公男 富士工業技術支援センター センター長
石川 敦大 中部ガス(株) 浜松支店 工事チーム
竹口 昌之 沼津工業高等専門学校物質工学科 准教授
朴 龍洙 静岡大学農学部応用生物化学科 教授
堀 一 (株) J-オイルミルズ 静岡事業所 生産技術部 生産技術部長
掛澤 俊英 浜松工業技術支援センター 機械材料科 科長
松本 豊 静岡県工業技術研究所 食品環境科 研究主幹
三谷 優 サッポロビール(株) フロンティア研究所 主任研究員
宮城島惇夫 静岡県立大学薬学部 准教授
村松 瑞夫 村松風送設備工業(株) 社長
茂木 克己 (株) 巴川製紙所 技術研究所 シニアリサーチャー
太田 俊也 沼津工業技術支援センター バイオスタッフ 主任研究員

<監 事>

溝口 健作
脇屋 和紀 (株) 大川原製作所 技術本部長

平成 19 年度事業計画

主催行事：

- (1) 役員会、総会、見学会（東部地区担当）
日 時：平成 19 年 6 月 7 日（木）
会 場：東レ（株） 三島工場（三島市）
内 容：事業・会計報告及び承認。事業計画・予算案の審議及び決定
- (2) 第34回静岡コロキウム：（東レ（株） 内田時彦氏担当）
「最新の繊維技術とポリマーアロイ」
日 時：平成 19 年 6 月 7 日（木）
会 場：東レ（株） 三島工場（三島市）
内 容：講演会
- (3) 第15回静岡フォーラム（静岡大学 武田和宏先生担当）
日 時：平成 19 年 9 月
会 場：アクトシティ浜松（浜松市）
内 容：講演会
- (4) 第16回企業技術交流会
日 時：平成 19 年 12 月
会 場：未定
内 容：講演会・見学会
- (5) 役員会、第35回静岡コロキウム
日 時：平成 20 年 2 月
会 場：未定
内 容：講演会・見学会

共催・後援行事：

- (1) 第4回分離プロセス基礎講座
固液分離工学 - 基礎と応用 -
主 催：化学工学会分離プロセス部会、化学工学会東海支部
日 時：平成19年5月25日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

- (2) 第10回「リフレッシュ理科教室」
主 催：応用物理学会東海支部
日 時：平成19年6月1日（金）、2日（土）
会 場：浜松科学館（浜松市）

- (3) 第31回基礎化学工学演習講座
主 催：化学工学会東海支部
日 時：第1コース 平成19年6月13日（水）～15日（金）
 第2コース 平成19年6月20日（水）～22日（金）
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

- (4) 第87回講演見学会
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成19年7月
会 場：未定

- (5) 第2回信州コロキウム
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成19年8月
会 場：未定

- (6) 第41回化学工学の進歩講習会
主 催：化学工学会東海支部
日 時：平成19年11月
会 場：名古屋市工業研究所（名古屋市）

(面会者) 技術部 設計管理グループ
グループリーダー

杉村好弘氏

会員企業を訪問し、事業活動の様子を取材させて戴きご紹介するコーナーです。今回は、日機装株式会社 医療機器カンパニー 静岡工場を訪ね事業概要や化学工学分野との関わりなどを取材させて戴きました。

1.事業概要は？

当社は、エネルギーや石油化学などの基幹産業分野、ITなど先端製品の製造・研究を支援する高圧・粉体技術分野、血液透析関連製品を中心とした医療機器分野、炭素繊維を使用した逆噴射装置用部品の航空機分野、更に最近ではナノテクノロジー分野となど新分野での技術開発・製品提供に取り薫取り組んでいます。



杉村好弘氏

当社は、50年前に米国からポンプについてのノーハウを導入し、プラント関係のポンプを扱ったのがスタートで、現在は分野ごとにカンパニー制をとっています。

・液体技術カンパニー

無漏洩ギヤードモーターポンプ、高精度定量注入ポンプ、極低温液化ガスポンプ、無脈動定量注入ポンプ、超高揚程高速遠心ポンプ

・インダストリアル・ソリューションズ カンパニー

水質調整装置、排水処理システム、オンラインイオンクロマト装置、水質分析計
湿式・乾式等方圧プレス装置、超臨界CO₂微粉化装置 など

・複合材カンパニー

CFRP製民間航空機向けエンジン逆噴射装置用カスケード、その他複合材製品

・医療機器カンパニー

人工腎臓装置、透析通信システム、中空糸型透析器、血液回路、人工腎臓透析用剤、人工膀胱、血漿浄化装置、微粒子ろ過フィルター、電子部品

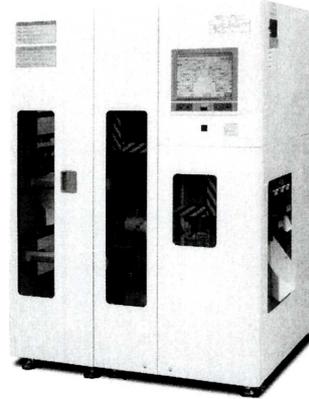
私たちの医療機器カンパニーにおいては、ここ静岡工場と金沢工場があります。静岡工場では、透析患者の血液を体外循環させて浄化する「人工腎臓装置」や糖尿病患者の血糖値を24時間体制で測定する「人工膀胱」などの開発・設計・製造をしています。常に高品質を確保するため装置に組み込む高密度実装電子基板をはじめとする重要部品の殆どを内製しています。非常に手作業の多い工程で、製品は全数検査を実施しています。電波暗室でEMC規格対応の試験も実施しています。一方、金沢工場は、医薬品およびディスプレイ

ブル医療機器の生産工場で当社独自開発のPEPA膜中空糸を用いた「ダイアライザー」や人工腎臓透析用剤「DドライS」を生産しています。



←
個人用透析装置
DBB[®]-73

水と透析液原液をミキシングする機能を持ち、一台で透析が出来る。



←
Dドライ溶解装置
DAD[®]-50

Dドライを溶解し、透析液原液として透析液供給装置に供給する。

2.化学工学の活用面は？

流体技術があります。透析装置用のポンプも自社で製造しています。また、透析は浸透圧差による拡散を利用していますし、ろ過や溶解の技術もあります。

材料面では、成形材料や中空糸材料などのポリマーの配合もしています。

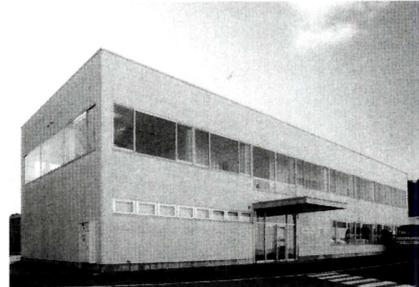
技術者は、メカニカル、エレクトリカル、ソフトウェアなど各分野がおります。

3.今後の取り組みは？

透析装置の国内シェアは、現在50%ほどですが、これをトータル的に伸ばしたいですね。その他、血液を送るポンプや薬剤注入などの医療機器についても取り組んでいきます。



同社 医療機器カンパニー 静岡工場
(静岡県牧之原市静谷498-1)



カスタムズセンター
病院スタッフを対象にした
教育訓練施設

私たちの周囲で、腎臓透析をされている方が年々増加しているように思います。かつては、透析後の体調不良のお話もよくありましたが、最近では機器の性能が向上し、随分楽になったと聞きます。同社の長年培ったポンプ技術をはじめとする多分野の技術の進歩や、医療機器として徹底した製造・品質管理などで、こうした患者負担を軽減する機能向上が可能になったということを理解しました。また、技術の中で、化学工学の貴重さも再認識した次第です。

同社の一層のご発展をお祈り申し上げます。

リポーター；幹事 (有)ホープ・マネジメント 河合文雄

静岡化学工学懇話会ホームページのご紹介

静岡化学工学懇話会のホームページではコロキウム、フォーラム等の各種行事の告知のほか、会報のバックナンバーの閲覧、掲載新聞記事の紹介もおこなっております。是非ご覧ください。

URL <http://cheme.eng.shizuoka.ac.jp/~cess/index.html>

懇話会事務局専用メールアドレスも用意されています。各種行事へのご参加、懇話会事務局へのお問い合わせにご利用ください。

懇話会事務局 E-mail cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp

ホームページに関するご意見、ご要望や掲載新聞記事の情報など、ございましたら是非お知らせください。

法人会員の皆様に本会HPからのリンクをお願いしています。可能でしたら、上記e-mailまたは立元 (tytatum@ipc.shizuoka.ac.jp) までURLをお知らせ下さい。

The screenshot shows the homepage of the Shizuoka Chemical Engineering Society (CESS). At the top, the title "静岡化学工学懇話会" is displayed. Below it is the society's logo, a circular emblem with a mountain and the text "SHIZUOKA CHEMICAL ENGINEERING SOCIETY" and "CESS 1968". To the right of the logo, the text "静岡化学工学懇話会は" is followed by a paragraph describing the society's purpose: "平成4年に静岡県地区での産官学の交流の促進と活性化を目的に設立されました。化学分野の業種に限らず、機械、電気、材料、エネルギー、環境、食品、情報など広範囲の分野の交流を期待しています。年間4～5回程度の講演会等を開催しております。是非ご参加ください。"

On the left side, there is a vertical menu with icons and text: "ご挨拶", "規約", "入会のご案内", "法人会員一覧", "会報", "新聞記事Topics", and "リンク".

In the center, there is a section titled "講演会等のご案内" with a "GO" button. Below it, the text reads: "Web上での参加申し込みが可能になりました。"

Below the menu and central text, there is a photograph of a landscape with a large mountain (Mount Fuji) in the background. The caption below the photo reads: "(三保の松原より富士を望む)".

At the bottom of the page, there is contact information: "お問い合わせ", "静岡化学工学懇話会事務局", "〒432-8561 静岡県浜松市中区城北3-5-1", "静岡大学工学部物質工学科化学システム工学コース内", "e-mail: cess@cheme.eng.shizuoka.ac.jp", "tel: 053-478-1188 fax: 053-476-0095".

At the very bottom, there is a logo for "Powered by APACHE".

ホームページ画面

(静岡大学 立元 雄治)

— 大学・高専等の職制変更について —

教員の組織に関する学校教育法の一部を改正する法律（平成17年7月）が平成19年4月1日から施行され、教員の職制と職名が次のように変わりました。

変更前の職名 (H18年度まで)	変更後の職名 (H19年度より)	新たな任用資格と職務
教授	教授	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の特に優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
助教授	准教授	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の優れた知識、能力及び実績を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
講師	講師	教授又は准教授に準ずる職務に従事する。
助手	助教	専攻分野について、教育上、研究上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。
	助手	その所属する組織における教育研究の円滑な実施に必要な業務に従事する。

＜編集後記＞

今年もコロキウム、静岡フォーラム、企業技術交流会といった多数の行事が開催され、静岡県の各分野の技術者、研究者にとって良き交流の場となっていることを実感するとともに、企画、遂行して下さった諸幹事の皆様に感謝しております。

会誌やHPにつきましてご意見、ご要望等ございましたらお知らせ下さい。今後もますますこの会が発展することを願っております。

(静岡大学工学部 立元雄治 記)

静岡化学工学懇話会会報

〈第15号〉

発行／平成19年6月7日

静岡化学工学懇話会

会長 蓮実文彦

〒432-8561 浜松市中区城北3-5-1

静岡大学工学部物質工学科

化学システム工学コース内

T E L (053)478-1188

F A X (053)476-0095

制作／静岡化学工学懇話会

(有)ホープ・マネジメント

T E L (053)430-4239

F A X (053)430-4238